

科目責任者 馬場 正樹（臨床漢方研究室）

■ 教育目的

伝統医学・伝承薬物が世界的視野から見直されてきており、漢方医学・アユルヴェーダー・欧州系植物療法等の伝統医学の概要、並びにそこで使われている伝承薬物を広く理解する必要がある。漢方医学の治療方針、臨床例を通して、現代の医療に貢献している東洋医学の実態を学ぶ。

【卒業認定・学位授与の方針：YD -①、②、③】

■ 学習到達目標

1. 世界の伝承薬物が見直され近年急速に普及してきた背景と実態を理解する。(知識)
2. 生活習慣病の予防における食生活の重要性を通じて、医食同源の概念を理解する。(知識)
3. 世界の伝統医学・伝承薬物を体系的に学び、特に、漢方医学がどのような背景で中国に起こり、現在の医療に貢献しているかを理解する。(知識)
4. 東洋医学（漢方）の概念や理論体系・治療方針を具体的臨床例を基に理解する。(知識)
5. 基本的な漢方処方についてその特徴と適用、留意事項などを概説できる。(知識・技能)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：教科書・参考書等の該当箇所に目を通しておく（30分以上）

復習：ノートや講義プリントを教科書・参考書等で確認する。（30分以上）

■ 授業内容

世界の伝統医療の現状やその意義について、今後の展開も含めて解説する。特に、我が国における漢方についてはその特徴的な理論体系を臨床現場における実例を例示しつつ概説する。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	各国の伝統医学・伝承薬物代替医療、未病医学	世界各国における伝統医学、生薬・伝承薬物について補完医療としての代替医療について、未病医学について	A(1)-④-1 A(1)-④-2 E2(10)-①-1 E2(10)-①-4
2	東洋医学の歴史	漢方医学の3大古典、わが国における漢方医学の受容と発展	A(1)-④-1 A(1)-④-2 E2(10)-①-1 E2(10)-①-2
3	漢方薬の特徴について	漢方薬と西洋薬、民間薬との相違について	E2(10)-①-3 E2(10)-①-4
4	生薬の生産と品質	生薬の産地と品質・流通、およびその鑑別や品質管理について	C5(1)-④-1
5	本草学と漢方	漢方医学における本草学の歴史や概念について	E2(10)-①-2 E2(10)-①-3
6	漢方の基礎理論（1）	陰陽・虚実・五行説・五臓六腑	E2(10)-①-2 E2(10)-②-1
7	漢方の基礎理論（2）	五臓六腑・表裏・内外・寒熱	E2(10)-①-2 E2(10)-②-1
8	漢方の基礎理論（3）	六病位・病因論・七情・心身一如・脾胃・未病	E2(10)-①-2 E2(10)-②-1
9	漢方の基礎理論（4）	気血水・四診・方剤学	E2(10)-①-2 E2(10)-②-1
10	漢方処方の運用（1）	頻用処方解説と臨床	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3
11	漢方処方の運用（2）	頻用処方解説と臨床	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3
12	漢方処方の運用（3）	頻用処方解説と臨床	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3

No.	項目	授業内容	SBO コード
13	漢方処方への運用 (4)	頻用処方解説と臨床	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3
14	漢方処方への運用 (5)	頻用処方解説と臨床	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3
15	まとめ	重要処方とその構成生薬	E2(10)-①-3 E2(10)-②-2 E2(10)-③-1

■ 授業分担者

矢久保 修嗣 (No.10~14)、馬場 正樹 (No.1・6~9・15)、緒方 千秋 (非常勤講師) (No.2・3)、坂田 幸治 (非常勤講師) (No.4・5)

■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

質問は随時受け付け、その一部は次回の講義または最終回で解説する。定期試験 90 % その他受講態度等 10 % で総合的に判断する。

■ 教科書

『学生のための漢方医学テキスト』 日本東洋医学会学術教育委員会 編 (南江堂)

■ 参考書

『薬学生のための漢方医薬学』 改訂第 3 版 (南江堂)

『薬学生・薬剤師のための知っておきたい生薬 100』 日本薬学会 編 (東京化学同人)

『図解 いちばんわかる! 東洋医学のきほん帳』 伊藤 剛 著 (学研)